

有効成分イソシクロセラムを含有する申請農薬の
使用方法及び薬効・薬害試験結果概要

1. サイモディスDC（イソシクロセラム9.3%水和剤）

(1) 使用方法

作物名	適用 病害虫名	希積 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イソシクロセラムを含む 農薬の総使用回数	
かんきつ	ミカンハダニ アザミヤマ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 チャノホコリダニ ミカンサビダニ ミカンハモグリガ	5000 倍	200~700 L/10 a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回 以内	
なし	ハダニ類 ニセナンサビダニ カメムシ類							
りんご	ハダニ類 カメムシ類 ハマキムシ類 キンモンホリガ			収穫前日 まで	1回			1回
核果類(も もを除く)	ハダニ類							
もも	ハダニ類 カメムシ類 モモハモグリガ ハマキムシ類							
だいこん	キスジノミハムシ カブラハバチ類 コナガ アオムシ ハイダラノメイガ	2500~ 4000 倍	100~300 L/10 a	収穫7日前 まで	2回 以内	2回 以内		
鱗茎類 (根物)	アザミヤマ類 ネギハモグリハエ							
鱗茎類 (葉物)	アザミヤマ類 ネギハモグリハエ シロイモシヨトウ	2500 倍						
	ネギニ類	500 倍	セル成型育苗トレイ 1箱またはペー パーポット1冊(約 30×60 cm、使 用土壌約1.5~4 L)当り 0.5 L	定植前日~ 定植当日	1回	4回以内(灌注は 1回以内、株元灌 注は1回以内、 散布は2回以内)		
	ネギニ類	5000 倍	0.3 L/m ²	収穫21日 前まで	1回		株元 灌注	

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イソクロラムを含む 農薬の総使用回数
きゅう り	アザミウマ類 トマトモグサリハエ ハダニ類 コナジラミ類 ウリノメイガ	2500 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	2 回 以内
うり類(成 熟、ただ し、すい か、メロンを 除く)	ハダニ類						
すいか メロン	アザミウマ類 トマトモグサリハエ コナジラミ類 ウリノメイガ						
トマト ミニトマト	アザミウマ類 トマトモグサリハエ トマトサビダニ コナジラミ類 オオタバコガ						
なす	アザミウマ類 トマトモグサリハエ ハダニ類 チャノホコリダニ コナジラミ類 オオタバコガ						
ピーマン	アザミウマ類 ハダニ類 チャノホコリダニ コナジラミ類 オオタバコガ						
カリフラワー	コカガ	4000 倍		収穫 7 日前 まで			
ブロッコリー	アオムシ アザミウマ類 ハイマダラノメイガ ヨトウムシ オオタバコガ ウリバ類						
結球あぶ らな科葉 菜類(キャ ベツ、はくさ いを除く)	コカガ アオムシ ハイマダラノメイガ ヨトウムシ オオタバコガ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前 まで 但し、キャベ ツにあつては 本葉切り落 とし開始の 前日まで	2 回 以内	散布	2 回 以内
キャベツ	アザミウマ類 ウリバ類 コカガ アオムシ			収穫 7 日前 まで			
はくさい	ハイマダラノメイガ ヨトウムシ オオタバコガ キスジノミハムシ カブラハバチ類						

作物名	適用 病害虫名	希積 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イソクロラムを含む 農薬の総使用回数
レタス	ナメクダリハエ オオタバコガ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前 まで	1 回	散布	1 回
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノホリガ		200~400 L/10 a	摘採 7 日前 まで			
花き類・ 観葉植物 (きくを除 く)	ハダニ類	2500 倍	100~200 L/10 a	発生 初期	2 回 以内		2 回 以内
きく	アザミウマ類 ハダニ類	2000~ 2500 倍					

(2) 薬効

① かんきつ

薬効・薬害試験の結果、ミカンハダニ、アザミウマ類、ゴマダラカミキリ、カメムシ類、チャノホコリダニ、ミカンサビダニ及びミカンハモグリガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-1：サイモディスDCの薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、ミカンハダニ）

作物名	実施 場所 実施 年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希積倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	静岡 R1	ミカンハダニ	多	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	愛媛 R1	ミカンハダニ	少 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	佐賀 R1	ミカンハダニ	中	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	山口 R2	ミカンハダニ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	愛媛 R2	ミカンハダニ	少	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	愛知 R3	ミカンハダニ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	佐賀 R3	ミカンハダニ	中 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-2：サイモディスDCの薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、アザミウマ類）

作物名	実施 場所 実施 年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希積倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	愛知 R1	ミカンキイロアザミウマ	多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かんきつ	三重 R1	チャノキイロアザミウマ	多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して 効果が認められな かった。	薬害は認めら れなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	山口 R1	チャノキイロアサギシマ	少～中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛知 R2	ミカンキイロアサギシマ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	山口 R2	チャノキイロアサギシマ	少～中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛知 R3	チャノキイロアサギシマ	多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	山口 R3	チャノキイロアサギシマ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	神奈川 R3	チャノキイロアサギシマ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-3：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、ゴマダラカミキリ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	山口 R1	ゴマダラカミキリ	多 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R1	ゴマダラカミキリ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	大分 R1	ゴマダラカミキリ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	山口 R2	ゴマダラカミキリ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R2	ゴマダラカミキリ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 R2	ゴマダラカミキリ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-4：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、カメムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	愛媛 R1	チャバネオカムシ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	佐賀 R1	チャバネオカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 成熟期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R2	チャバネオカムシ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
かんきつ	福岡 R2	チャバネオカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	熊本 R2	チャバネオカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R2	チャバネオカムシ ツヤオカムシ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 成熟期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	福岡 R3	チャバネオカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-5：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、チャノホコリダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	静岡 R1	チャノホコリダニ	甚 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	広島 R1	チャノホコリダニ	少 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R1	チャノホコリダニ	多 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	神奈川 R2	チャノホコリダニ	少 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R2	チャノホコリダニ	多 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	広島 R2	チャノホコリダニ	少 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-6：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、ミカンサビダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	愛媛 R1	ミカンサビダニ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R2	ミカンサビダニ	中~多	5,000 0.002	果実 成熟期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	長崎 R2	ミカンサビダニ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R3	ミカンサビダニ	少 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	徳島 R3	ミカンサビダニ	多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	愛媛 R3	ミカンサビダニ	多	5,000 0.002	果実 成熟期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-7：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（かんきつ、ミカンハモグリガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かんきつ	神奈川 R1	ミカンハモグリガ	多	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	熊本 R1	ミカンハモグリガ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	大分 R1	ミカンハモグリガ	多	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	神奈川 R2	ミカンハモグリガ	中	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	静岡 R2	ミカンハモグリガ	中	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
かんきつ	広島 R2	ミカンハモグリガ	中	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

② なし

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類、ニセナシサビダニ及びカメムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-8：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（なし、ハダニ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なし	山梨 R1	ハダニ	多→少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	鳥取 R1	クワオハダニ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-9：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（なし、ニセナシサビダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なし	福島 R1	ニセナシサビダニ	甚	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なし	新潟 R1	ニセナシサビダニ	多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	長野 R1	ニセナシサビダニ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	福島 R2	ニセナシサビダニ	少→多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	新潟 R2	ニセナシサビダニ	多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	長野 R2	ニセナシサビダニ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-10：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（なし、カメムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なし	山梨 R1	チャバネオカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。
なし	鳥取 R1	チャバネオカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。

③ りんご

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類、カメムシ類、ハマキムシ類及びキンモンホソガに対し
て無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-11：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（りんご、ハダニ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
りんご	青森 R1	ナミハダニ	少→甚	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	岩手 R1	ナミハダニ リンゴハダニ	中→甚	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	長野 R1	ナミハダニ	中→多	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	青森 R2	リンゴハダニ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	秋田 R2	ナミハダニ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実肥 大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	福島 R2	ナミハダニ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-12：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（りんご、カメムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
りんご	青森 R1	クサギカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	秋田 R1	クサギカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。
りんご	山梨 R1	チャバネオカムシ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	青森 R2	クサギカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
りんご	秋田 R2	クサギカムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。
りんご	山梨 R2	チャバネオカムシ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。

表 1-13 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (りんご、ハマキムシ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
りんご	青森 R1	リンゴコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	青森 R2	ミダレコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	開花・ 結実期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	山梨 R2	チャノコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-14 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (りんご、キンモンホソガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
りんご	青森 R1	キンモンホソガ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
りんご	長野 R1	キンモンホソガ	少	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
りんご	青森 R2	キンモンホソガ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	岩手 R2	キンモンホソガ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
りんご	長野 R2	キンモンホソガ	中	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	岩手 R3	キンモンホソガ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

④ 核果類

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。核果類のハダニ類に対する効果については、核果類に含まれるものの試験で評価した。

表 1-15 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (もも及びすもも、ハダニ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
もも	山形 R1	ナミハダニ	多(放 虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	福島 R1	クワオハダニ	中→多 →少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R1	ナミハダニ	多→中	5,000 0.002	収穫後	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	福島 R2	カンザワハダニ	多	5,000 0.002	収穫後	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	長野 R2	ナミハダニ	少→多	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
もも	山梨 R2	ナミダニ	中→甚	5,000 0.002	収穫後	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すもも	長野 R2	ナミダニ	中→多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すもも	山梨 R2	ナミダニ	中	5,000 0.002	収穫後	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑤ もも

薬効・薬害試験の結果、カメムシ類、モモハモグリガ及びハマキムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-16：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（もも、カメムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
もも	福島 R1	チャバネオカメムシ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R1	チャバネオカメムシ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-17：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（もも、モモハモグリガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
もも	福島 R1	モモハモグリガ	甚	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	長野 R1	モモハモグリガ	少	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	福島 R2	モモハモグリガ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	長野 R2	モモハモグリガ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R2	モモハモグリガ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	愛媛 R2	モモハモグリガ	少	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-18：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（もも、ハマキムシ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
もも	福島 R1	リンゴコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	福岡 R1	チャノコカクモンハマキ	中 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	福島 R2	リンゴコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	長野 R2	トビハマキ	中 (放虫)	5,000 0.002	新梢 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R2	チャノコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	福岡 R2	チャノコカクモンハマキ	多 (放虫)	5,000 0.002	果実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑥ だいこん

薬効・薬害試験の結果、キスジノミハムシ、カブラハバチ類、コナガ、アオムシ及びハイマダラノメイガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-19：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（だいこん、キスジノミハムシ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	青森 R2	キスジノミハムシ	少	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	新潟 R2	キスジノミハムシ	中	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	岡山 R2	キスジノミハムシ	甚	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	岐阜 R2	キスジノミハムシ	中	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	青森 R3	キスジノミハムシ	中	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	茨城 R3	キスジノミハムシ	多	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	新潟 R3	キスジノミハムシ	少→多	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	青森 R1	キスジノミハムシ	多	2,500 0.004	幼苗期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	長野 R1	キスジノミハムシ	甚	2,500 0.004	幼苗期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
だいこん	岐阜 R1	キスジノミハムシ	甚	2,500 0.004	幼苗期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-20 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (だいこん、カブラハバチ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	石川 R2	カブラハバチ	多	2,500 0.004	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	石川 R2	カブラハバチ	多	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	福井 R2	カブラハバチ	多 (放虫)	2,500 0.004	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	福井 R2	カブラハバチ	多 (放虫)	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	茨城 R3	カブラハバチ類	中	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	新潟 R2	カブラハバチ	中	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	石川 R3	カブラハバチ	中	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	福井 R3	カブラハバチ	中 (放虫)	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	茨城 R1	カブラハバチ類	中	2,500 0.004	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-21 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (だいこん、コナガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	青森 R2	コナガ	多	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	宮崎 R2	コナガ	中 (放虫)	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-22 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (だいこん、アオムシ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	神奈川 R2	アオムシ	少	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	茨城 R2	アオムシ	少→ 極少(放虫)	4,000 0.002	主根 肥大初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-23：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（だいこん、ハイマダラノメイガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	宮崎 R2	ハイマダラノメイガ	多	4,000 0.002	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	岡山 R2	ハイマダラノメイガ	甚	4,000 0.002	幼苗期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	宮崎 R1	ハイマダラノメイガ	中	2,500 0.004	主根 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑦ 鱗茎類（根物）

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類及びネギハモグリバエに対して無処理区と比べて効果が認められた。鱗茎類（根物）のアザミウマ類及びネギハモグリバエに対する効果については、鱗茎類（根物）に含まれるたまねぎの試験で評価した。

表 1-24：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（たまねぎ、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
たまねぎ	岩手 R1	ネギアザミウマ	中	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
たまねぎ	香川 R1	ネギアザミウマ	多	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-25：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（たまねぎ、ネギハモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
たまねぎ	北海道 R1	ネギハモグリバエ	少	2,500 0.004	鱗茎 肥大期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
たまねぎ	北海道 R2	ネギハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑧ 鱗茎類（葉物）

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類、ネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウ及びネダニ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。鱗茎類（葉物）のアザミウマ類、ネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウ及びネダニ類に対する効果については、鱗茎類（葉物）に含まれるねぎの試験で評価した。

表 1-26：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ねぎ、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ねぎ	秋田 R1	ネギアザミウマ	中	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ねぎ	新潟 R1	ネギアザミウマ	甚	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	埼玉 R1	ネギアザミウマ	少→甚	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	秋田 R2	ネギアザミウマ	中	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	鳥取 R2	ネギアザミウマ	多	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	埼玉 R2	ネギアザミウマ	少→中	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-27：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ねぎ、ネギハモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ねぎ	岩手 R1	ネギハモグリバエ	多	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	秋田 R1	ネギハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	新潟 R1	ネギハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	秋田 R2	ネギハモグリバエ	中	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	鳥取 R2	ネギハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	香川 R2	ネギハモグリバエ	中	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-28：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ねぎ、シロイチモジヨトウ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ねぎ	香川 R1	シロイチモジヨトウ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	高知 R1	シロイチモジヨトウ	少 (放虫)	2,500 0.004	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	高知 R2	シロイチモジヨトウ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	宮崎 R2	シロイチモジヨトウ	多 (放虫)	2,500 0.004	定植 活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	高知 R3	シロイチモジヨトウ	多 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ねぎ	宮崎 R3	シロイチモジヨトウ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 伸長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-29：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ねぎ、ネダニ類、灌注）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量(L/ 箱又はL/ 冊)*	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ねぎ	秋田 R1	ヒンネダニ	少	500 0.019	0.5	定植 前日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	埼玉 R1	ヒンネダニ	少	500 0.019	0.5	定植 前日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	埼玉 R1	ヒンネダニ	少→ 甚	500 0.019	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	長野 R2	ヒンネダニ	中	500 0.019	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	埼玉 R3	ヒンネダニ	少→ 中	500 0.019	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	長野 R3	ヒンネダニ	中	500 0.019	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	高知 R2	ヒンネダニ	少	500 0.019	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。

*：箱はセル成型育苗トレイ、冊はトレイペーパーポット（30×60 cm、使用土壌約 3-4 L）を示す。

表 1-30：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ねぎ、ネダニ類、株元灌注）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/m ²)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ねぎ	秋田 R1	ヒンネダニ	中	5,000 0.002	0.3	茎葉 伸長期	株元 灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	埼玉 R1	ヒンネダニ	少→ 多	5,000 0.002	0.3	定植 活着期	株元 灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
ねぎ	埼玉 R2	ヒンネダニ	中→ 甚	5,000 0.002	0.3	茎葉 伸長期	株元 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。

⑨ きゅうり

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類、トマトハモグリバエ、ハダニ類、コナジラミ類及びウリノメイガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-31：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（きゅうり、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 R1	アザミウマ カンキョアザミウマ	少	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	大阪 R1	アザミウマ	多→中	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	宮城 R1	ネギアサミウマ ミカンキイアサミウマ	中	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 R2	ミカンキイアサミウマ ネギアサミウマ ミナキイアサミウマ ヒラスアサミウマ	中→少	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	高知 R2	ミナキイアサミウマ ネギアサミウマ	多	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R2	ミナキイアサミウマ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-32：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（きゅうり、トマトハモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 R1	トマトハモグリバエ	中	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R1	トマトハモグリバエ	少	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	熊本 R1	トマトハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が 認められたが、その程度は 低かった。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 R2	トマトハモグリバエ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R2	トマトハモグリバエ	多 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	高知 R2	トマトハモグリバエ	中	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-33：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（きゅうり、ハダニ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 R1	アシノワハダニ	中	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	奈良 R1	カンザワハダニ	中→多	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	鹿児島 R1	カンザワハダニ	中→多 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R2	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	奈良 R2	ナミハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 R2	カンザワハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-34 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (きゅうり、コナジラミ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 R1	オンジツコナジラミ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R1	タバココナジラミ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が 認められたが、その程度は 低かった。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮城 R2	オンジツコナジラミ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 R2	オンジツコナジラミ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	奈良 R2	タバココナジラミ	中→多 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R2	タバココナジラミ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-35 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (きゅうり、ウリノメイガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	高知 R1	ウリノメイガ	多 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きゅうり	鹿児島 R1	ウリノメイガ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きゅうり	宮崎 R1	ウリノメイガ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きゅうり	宮崎 R2	ウリノメイガ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きゅうり	鹿児島 R2	ウリノメイガ	中	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きゅうり	高知 R2	ウリノメイガ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

⑩ すいか、メロン、うり類 (成熟)

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

うり類 (成熟) ハダニ類に対する効果については、うり類 (成熟) に含まれるすいか、メロン及びかぼちゃの試験で評価した。

表 1-36 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (すいか、メロン及びかぼちゃ、ハダニ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	鳥取 R1	カンザワハダニ	多	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
すいか	宮崎 R1	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
モン	茨城 R1	ナミハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
モン	宮崎 R1	ナミハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かぼちゃ	宮崎 R2	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
かぼちゃ	宮崎 R3	カンザワハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

⑪ すいか

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類、アザミウマ類、トマトハモグリバエ、コナジラミ類及び
ビウリノメイガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-37：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（すいか、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	茨城 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
すいか	鹿児島 R1	ミカンキイロアザミウマ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-38：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（すいか、トマトハモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	沖縄 R1	マメハモグリバエ トマトハモグリバエ	中	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められな かった。
すいか	宮崎 R1	トマトハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められな かった。

表 1-39：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（すいか、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	茨城 R1	オンシツコナジラミ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
すいか	宮崎 R1	タバココナジラミ	少→多	2,500 0.004	茎葉展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-40 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (すいか、ウリノメイガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	宮崎 R3	ウリノメイガ	少	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 R3	ウリノメイガ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑫ メロン

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類、アザミウマ類、トマトハモグリバエ、コナジラミ類及びウリノメイガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-41 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (メロン、アザミウマ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	静岡 R1	アザミウマ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	鹿児島 R1	アザミウマ	多 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-42 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (メロン、トマトハモグリバエ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	茨城 R1	トマトハモグリバエ	少→中 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R1	トマトハモグリバエ	少	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-43 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (メロン、コナジラミ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	宮崎 R1	コナジラミ	多	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	茨城 R2	コナジラミ	少 (放虫)	2,500 0.004	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-44：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（メロン、ウリノメイガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	宮崎 R2	ウリノメイガ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	高知 R2	ウリノメイガ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑬ トマト、ミニトマト

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類、トマトハモグリバエ、トマトサビダニ、コナジラミ類及びオオタバコガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

ミニトマトのアザミウマ類、トマトハモグリバエ、トマトサビダニ、コナジラミ類及びオオタバコガに対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 1-45：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（トマト、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	福島 R1	ミカンキイロアザミウマ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-46：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（トマト、トマトハモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	神奈川 R1	トマトハモグリバエ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R1	トマトハモグリバエ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 R2	トマトハモグリバエ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	奈良 R2	トマトハモグリバエ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R2	トマトハモグリバエ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 R2	トマトハモグリバエ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-47：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（トマト、トマトサビダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	三重 R1	トマトサビダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 R1	トマトサビダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	大阪 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	三重 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	高知 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	三重 R3	トマトサビダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

表 1-48：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（トマト、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	宮城 R1	オシツコナジラミ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	茨城 R1	オシツコナジラミ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 R1	タバコナジラミ	少	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 R2	タバコナジラミ	甚	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	茨城 R2	オシツコナジラミ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	高知 R2	タバコナジラミ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

表 1-49：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（トマト、オオタバコガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	茨城 R1	オオタバコガ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	高知 R1	オオタバコガ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 R1	オオタバコガ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

⑭ なす

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類、トマトハモグリバエ、ハダニ類、チャノホコリダニ、コナジラミ類及びオオタバコガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-50：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（なす、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	宮城 R1	ヒラズハナアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	茨城 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R1	ミナキイロアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	ミナキイロアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	高知 R2	ミナキイロアザミウマ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	茨城 R2	ミカンキイロアザミウマ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	大阪 R2	ミナキイロアザミウマ	少	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-51：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（なす、トマトハモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R1	トマトハモグリバエ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R1	トマトハモグリバエ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-52：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（なす、ハダニ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R1	アシノワハダニ	中→無	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	山口 R1	ナミハダニ	少→中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	徳島 R1	カンザワハダニ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R2	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R2	ナミハダニ	中→少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	高知 R2	カンザワハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-53 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (なす、チャノホコリダニ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	岡山 R1	チャノホコリダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	高知 R1	チャノホコリダニ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	宮崎 R1	チャノホコリダニ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	福岡 R2	チャノホコリダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	宮崎 R2	チャノホコリダニ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	高知 R2	チャノホコリダニ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

表 1-54 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (なす、コナジラミ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R1	ボンツコナジラミ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	宮崎 R1	タハコナジラミ	多	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

表 1-55 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (なす、オオタバコガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R1	オオタバコガ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	高知 R1	オオタバコガ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
なす	宮崎 R1	オオタバコガ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

⑮ ピーマン

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類、ハダニ類、チャノホコリダニ、コナジラミ類及びオオタバコガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-56：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ピーマン、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	宮崎 R1	ミナキイロアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	岩手 R1	ヒラス ¹ ハナアザミウマ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-57：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ピーマン、ハダニ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	奈良 R1	ナミハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 R1	カンザワハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-58：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ピーマン、チャノホコリダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	高知 R1	チャノホコリダニ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	チャノホコリダニ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	大阪 R2	チャノホコリダニ	少	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-59：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ピーマン、コナジラミ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	茨城 R1	タバココナジラミ	中→多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R1	タバココナジラミ	中	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-60 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (ピーマン、オオタバコガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	茨城 R1	オオタバコガ	中(放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R1	オオタバコガ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R1	オオタバコガ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R2	オオタバコガ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R2	オオタバコガ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	オオタバコガ	多 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R3	オオタバコガ	少 (放虫)	2,500 0.004	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑩ カリフラワー

薬効・薬害試験の結果、コナガ、アオムシ及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-61 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (カリフラワー、コナガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
カリフラワー	宮崎 R2	コナガ	少	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
カリフラワー	茨城 R2	コナガ	少→中 →少	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-62 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (カリフラワー、アオムシ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
カリフラワー	岡山 R2	アオムシ	多→甚	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
カリフラワー	茨城 R2	アオムシ	中→多	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-63：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（カリフラワー、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
カリフラワー	茨城 R3	ネギアザミウマ	中	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
カリフラワー	宮崎 R3	ネギアザミウマ	中	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑰ ブロッコリー

薬効・薬害試験の結果、コナガ、アオムシ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ、オオタバコガ及びウワバ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-64：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ブロッコリー、コナガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	茨城 R2	コナガ	中→多	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	長野 R2	コナガ	多	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-65：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ブロッコリー、アオムシ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	岡山 R2	アオムシ	多→甚	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	茨城 R2	アオムシ	中→多	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-66：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（ブロッコリー、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	茨城 R2	ネギアザミウマ	中	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	愛知 R2	ネギアザミウマ	中	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-67 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (ブロッコリー、ハイマダラノメイガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	宮崎 R2	ハイマダラノメイガ	中	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	愛知 R2	ハイマダラノメイガ	中	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-68 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (ブロッコリー、ヨトウムシ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	茨城 R2	ヨトウムシ	中 (放虫)	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	愛媛 R2	ヨトウムシ	少 (放虫)	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-69 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (ブロッコリー、オオタバコガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	宮崎 R2	オオタバコガ	中 (放虫)	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	茨城 R2	オオタバコガ	中 (放虫)	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-70 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (ブロッコリー、ウワバ類)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	青森 R2	タマキソウリハ	多	4,000 0.002	花蕾発生・ 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	岡山 R2	タマキソウリハ	少	4,000 0.002	葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑱ 結球あぶらな科葉菜類

薬効・薬害試験の結果、コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ及びオオタバコガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

結球あぶらな科葉菜類のコナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ及びオオタバコガに対する効果については、結球あぶらな科葉菜類に含まれるキャベツ及びはくさいの試験で評価した。

表 1-71：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（キャベツ及びはくさい、コナガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 R1	コナガ	中	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	愛知 R1	コナガ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	滋賀 R1	コナガ	中 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	愛知 R2	コナガ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	山梨 R2	コナガ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	長野 R3	コナガ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 R2	コナガ	中 (放虫)	4,000 0.002	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	長野 R2	コナガ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R2	コナガ	少 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-72：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（キャベツ及びはくさい、アオムシ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	愛知 R1	アオムシ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R1	アオムシ	中→甚	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R1	アオムシ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	青森 R2	アオムシ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R2	アオムシ	中→多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	茨城 R2	アオムシ	中	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R2	アオムシ	中 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R3	アオムシ	少 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-73 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (キャベツ及びはくさい、ハイマダラノメイガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	愛知 R1	ハイマダラノメイガ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R1	ハイマダラノメイガ	多→ 極少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R2	ハイマダラノメイガ	中→少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	和歌山 R2	ハイマダラノメイガ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	愛知 R2	ハイマダラノメイガ	中	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R3	ハイマダラノメイガ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	宮崎 R2	ハイマダラノメイガ	甚	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	愛知 R2	ハイマダラノメイガ	甚	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-74 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (キャベツ及びはくさい、ヨトウムシ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	青森 R1	ヨトウムシ	多 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 R1	ヨトウムシ	多→中 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R1	ヨトウムシ	甚	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	青森 R2	ヨトウムシ	多 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 R2	ヨトウムシ	多 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	茨城 R2	ヨトウムシ	多 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	岡山 R2	ヨトウムシ	少 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R2	ヨトウムシ	甚 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-75 : サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要 (キャベツ及びはくさい、オオタバコガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	茨城 R1	オオタバコガ	多 (放虫)	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	宮崎 R1	オオタバコガ	少 (放虫)	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R2	オオタバコガ	少 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	神奈川 R2	オオタバコガ	多→少 (放虫)	4,000 0.002	定植活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	茨城 R2	オオタバコガ	少 (放虫)	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	高知 R1	オオタバコガ	中 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	宮崎 R2	オオタバコガ	少 (放虫)	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R2	オオタバコガ	中→ 極少 (放虫)	4,000 0.002	定植活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑬ キャベツ

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類及びウワバ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-76：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（キャベツ、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	茨城 R1	ネギアザミウマ	少→中	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R1	ネギアザミウマ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R2	ネギアザミウマ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R2	ネギアザミウマ	中	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	神奈川 R2	ネギアザミウマ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	茨城 R2	ネギアザミウマ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-77：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（キャベツ、ウワバ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	愛知 R1	イラクサギンウワバ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	山梨 R1	タマギンウワバ	多	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 R1	タマギンウワバ	中	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	岡山 R2	タナキニンウワバ	少	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	長野 R2	タナキニンウワバ	少	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	山梨 R3	タナキニンウワバ	中	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R2	イラクサキンウワバ	少 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑳ はくさい

薬効・薬害試験の結果、キスジノミハムシ及びカブラハバチ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-78：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（はくさい、キスジノミハムシ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
はくさい	新潟 R2	キスジノミハムシ	中	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R2	キスジノミハムシ	多	4,000 0.002	定植 活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-79：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（はくさい、カブラハバチ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
はくさい	新潟 R2	カブラハバチ	少 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R2	ニホンカブラハバチ カブラハバチ セグロカブラハバチ	中 (放虫)	4,000 0.002	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

㉑ レタス

薬効・薬害試験の結果、ナモグリバエ及びオオタバコガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-80：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（レタス、ナモグリバエ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
レタス	青森 R2	ナモグリバエ	甚	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	岩手 R2	ナモグリバエ	中	4,000 0.002	定植活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	岡山 R2	ナモグリバエ	中	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
レタス	長野 R2	ナモグバリアエ	多	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	青森 R3	ナモグバリアエ	甚	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	長野 R3	ナモグバリアエ	中	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	岡山 R3	ナモグバリアエ	中	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-81：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（レタス、オオタバコガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
レタス	茨城 R2	オオタバコガ	中→ 極少 (放虫)	4,000 0.002	定植活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	茨城 R3	オオタバコガ	少 (放虫)	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	高知 R2	オオタバコガ	多 (放虫)	4,000 0.002	外葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	高知 R3	オオタバコガ	中 (放虫)	4,000 0.002	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

② 茶

薬効・薬害試験の結果チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、カンザワハダニ、チャノコカクモンハマキ及びチャノホソガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-82：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（茶、チャノキイロアザミウマ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	京都 R1	チャノキイロアザミウマ	中	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R1	チャノキイロアザミウマ	少	4,000 0.002	四番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R1	チャノキイロアザミウマ	中→多	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R2	チャノキイロアザミウマ	少	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	チャノキイロアザミウマ	中	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R2	チャノキイロアザミウマ	少→中	4,000 0.002	四番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-83：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（茶、チャノミドリヒメヨコバイ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	静岡 R1	チャノミドリヒメヨコバイ	虫数：少 被害芽率：甚	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R1	チャノミドリヒメヨコバイ	虫数：少 被害芽率：甚	4,000 0.002	四番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 R1	チャノミドリヒメヨコバイ	虫数：多 被害芽率：甚	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	チャノミドリヒメヨコバイ	虫数：多→少 被害芽率：甚	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	チャノミドリヒメヨコバイ	虫数：少 被害芽率：甚	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R2	チャノミドリヒメヨコバイ	虫数：少 被害芽率：甚	4,000 0.002	四番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-84：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（茶、カンザワハダニ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	福岡 R1	カンザワハダニ	中	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	熊本 R1	カンザワハダニ	多	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 H30	カンザワハダニ	少	4,000 0.002	一番茶 萌芽前	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	カンザワハダニ	少	4,000 0.002	四番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	カンザワハダニ	多	4,000 0.002	一番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	熊本 R2	カンザワハダニ	多	4,000 0.002	一番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-85：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（茶、チャノコカクモンハマキ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	静岡 R1	チャノコカクモンハマキ	少	4,000 0.002	一番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R1	チャノコカクモンハマキ	少	4,000 0.002	一番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	宮崎 R2	チャノコカクモンハマキ	中	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	チャノコカクモンハマキ	少	4,000 0.002	幼木	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	大分 R2	チャノコカクモンハマキ	多 (放虫)	4,000 0.002	四番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	神奈川 R3	チャノコカクモンハマキ	少	4,000 0.002	三番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R3	チャノコカクモンハマキ	中	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-86：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（茶、チャノホソガ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	滋賀 R1	チャノホソガ	少	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	熊本 R1	チャノホソガ	少	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 R1	チャノホソガ	少	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	滋賀 R2	チャノホソガ	少	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	宮崎 R2	チャノホソガ	少	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	滋賀 R3	チャノホソガ	中	4,000 0.002	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

④ 花き類・観葉植物

薬効・薬害試験の結果、ハダニ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

花き類・観葉植物のハダニ類に対する効果については、花き類・観葉植物に含まれるきく、ばら及びカーネーションの試験で評価した。

表 1-87：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（きく、ばら及びカーネーション、ハダニ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きく	大阪 R1	ナミハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きく	鹿児島 R2	ナミハダニ	多 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きく	愛知 R2	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きく	福岡 R2	ナミハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きく	宮崎 R2	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	富山 R2	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
ばら	茨城 R1	カンザワハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
ばら	東京 R1	カンザワハダニ	中 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
カーネーション	長野 R2	ナミハダニ	中	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
カーネーション	茨城 R3	カンザワハダニ	少 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

⑤ きく

薬効・薬害試験の結果、アザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-88：サイモディス DC の薬効・薬害試験結果概要（きく、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きく	愛知 R1	クロゲハナアザミウマ	中	2,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	愛知 R1	クロゲハナアザミウマ	中	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	鹿児島 R1	クロゲハナアザミウマ	中	2,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	鹿児島 R1	クロゲハナアザミウマ	中	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	富山 R1	ヒラスハナアザミウマ	中	2,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	富山 R1	ヒラスハナアザミウマ	中	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	茨城 R1	ヒラスハナアザミウマ	中 (放虫)	2,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	茨城 R1	ヒラスハナアザミウマ	中 (放虫)	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	茨城 R2	クロゲハナアザミウマ	中	2,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	茨城 R2	クロゲハナアザミウマ	中	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	鹿児島 R2	クロゲハナアザミウマ	多	2,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
きく	鹿児島 R2	クロゲハナアザミウマ	多	2,500 0.004	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

(3) 薬害

① 対象作物への薬害

表 1-1 から表 1-88 に示した薬効・薬害試験において、薬害は認められなかった。

サイモディス DC (イソシクロセラム 9.3 %水和剤) を用いて実施したたまねぎ、にんにく、らっきょう、にら及びあんずの薬害試験結果概要を表 1-89 に示す。試験の結果、薬害は認められなかった。

サイモディス DC (イソシクロセラム 9.3 %水和剤) を用いて実施した茶の残臭試験の結果概要を表 1-90 に示す。残臭試験の結果、摘採 1 日前の使用において薬臭は認められなかった。

以上の結果から、申請作物に対する薬害について問題ないと判断した。

表 1-89 : サイモディス DC の薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理 時期	使用 方法	
たまねぎ	茨城 R2	2,500	0.004	鱗茎 肥大期	散布	薬害は認められなかった。
たまねぎ	宮崎 R2	2,500	0.004	鱗茎 肥大期	散布	薬害は認められなかった。
にんにく	鹿児島 R3	株元灌注： 5,000	0.002	定植 14 日後	株元灌注 及び散布	薬害は認められなかった。
		散布：2,500	0.004	定植 21 日後		
らっきょう	福井 R3	株元灌注： 5,000	0.002	植付 10 日後	株元灌注 及び散布	第 1 回散布 11 日後の調査では、草丈、葉数は無処理に比べやや抑制傾向であった。第 2 回散布 10 日後以降の調査では、草丈、葉数ともに無処理に比べてややまさる生育を示した。調査の全期間を通じ薬斑は認められず、生育の状況と総合的に判断し、薬害は認められなかった。
		散布：2,500	0.004	植付 21 日後		
にら	福島 R3	灌注：500	0.020	定植前	灌注、 株元灌注 及び散布	薬害は認められなかった。
		株元灌注： 5,000	0.002	定植 7 日後		
		散布：2,500	0.004	定植 14 日後		
あんず	長野 R3	2,500	0.004	果実 肥大期	散布	薬害は認められなかった。

表 1-90 : サイモディス DC の茶の残臭試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用 方法	
茶	高知 R2	4,000	0.002	一番茶摘採期 摘採 1, 7, 14, 21 日前	散布	いずれの時期も薬臭は認められなかった。
	福岡 R2	4,000	0.002	一番茶摘採期 摘採 1, 7, 14, 21 日前	散布	いずれの時期も薬臭は認められなかった。

② 対象作物以外の作物への薬害

表 1-1 から表 1-89 に示した薬効・薬害試験及び薬害試験において、9 科 28 作物について、実用上問題となる薬害は認められなかった。このことから、適用作物の周辺で栽培される作物への薬害について問題ないと判断した。

2. アテクゾフロアブル（イソシクロセラム 18.1 %水和剤）

(1) 使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソシクロセラムを含む農薬の総使用回数
芝	シバツトガ スジキリヨトウ コガネムシ類幼虫 シバオサザウムシ	2667~4000 倍	200 mL/m ²	発生初期	2 回以内	散布	2 回 以内

(2) 薬効

① 芝

薬効・薬害試験の結果、シバツトガ、スジキリヨトウ、コガネムシ類幼虫及びシバオサザウムシに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 2-1：アテクゾフロアブルの薬効・薬害試験結果概要（日本芝（のしば）、スジキリヨトウ）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
日本芝 (のしば)	静岡 R1	スジキリヨトウ	多	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	静岡 R1	スジキリヨトウ	多	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	奈良 R1	スジキリヨトウ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	奈良 R1	スジキリヨトウ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	福岡 R1	スジキリヨトウ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	福岡 R1	スジキリヨトウ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	静岡 R2	スジキリヨトウ	多	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	奈良 R2	スジキリヨトウ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	奈良 R2	スジキリヨトウ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	福岡 R2	スジキリヨトウ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	福岡 R2	スジキリヨトウ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	奈良 R3	スジキリヨトウ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	山口 R2	スジキリヨトウ	多	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
日本芝 (のしば)	広島 R3	スジキリヨトウ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

表 2-2 : アテクゾフロアブルの薬効・薬害試験結果概要 (日本芝 (のしば)、日本芝 (こうらいしば) 及び西洋芝 (バーミュダグラス)、シバオサゾウムシ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
日本芝(のしば)	山口 R2	シバオサゾウムシ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(のしば)	山口 R2	シバオサゾウムシ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(のしば)	兵庫 R2	シバオサゾウムシ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(のしば)	兵庫 R2	シバオサゾウムシ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(のしば)	山口 R3	シバオサゾウムシ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(のしば)	山口 R3	シバオサゾウムシ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば) 日本芝(のしば)	山口 R1	シバオサゾウムシ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば) 日本芝(のしば)	山口 R1	シバオサゾウムシ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(バーミュダグラス)	静岡 R1	シバオサゾウムシ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(バーミュダグラス)	静岡 R1	シバオサゾウムシ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(バーミュダグラス)	静岡 R2	シバオサゾウムシ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 2-3 : アテクゾフロアブルの薬効・薬害試験結果概要 (日本芝 (のしば) 及び日本芝 (こうらいしば)、コガネムシ類幼虫)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
日本芝(のしば)	静岡 R3	ウスチャコガネ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	兵庫 R1	ウスチャコガネ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	兵庫 R1	ウスチャコガネ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	静岡 R2	ウスチャコガネ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	福岡 R2	ヒラタアオコガネ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	福岡 R2	ヒラタアオコガネ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	兵庫 R3	セマダラコガネ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうらいしば)	兵庫 R3	セマダラコガネ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
日本芝(こうら いしば)	山口 R3	セマダ [△] ラコガ [△] ネ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうら いしば)	山口 R3	セマダ [△] ラコガ [△] ネ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうら いしば)、日本 芝(のしば)	山口 R1	セマダ [△] ラコガ [△] ネ	少	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうら いしば)、日本 芝(のしば)	山口 R1	セマダ [△] ラコガ [△] ネ	少	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうら いしば) 日本芝(のしば)	山口 R2	セマダ [△] ラコガ [△] ネ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
日本芝(こうら いしば) 日本芝(のしば)	山口 R2	セマダ [△] ラコガ [△] ネ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 2-4 : アテクゾフロアブルの薬効・薬害試験結果概要 (西洋芝 (ベントグラス)、シバツトガ)

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
西洋芝(ベ ントグラス)	兵庫 R1	シバ [△] ツトガ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	兵庫 R1	シバ [△] ツトガ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	山口 R1	シバ [△] ツトガ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	山口 R1	シバ [△] ツトガ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	福岡 R1	シバ [△] ツトガ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	福岡 R1	シバ [△] ツトガ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	山口 R2	シバ [△] ツトガ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	山口 R2	シバ [△] ツトガ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	兵庫 R2	シバ [△] ツトガ	多	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	兵庫 R2	シバ [△] ツトガ	多	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	福岡 R2	シバ [△] ツトガ	中	2,667 0.007	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
西洋芝(ベ ントグラス)	福岡 R2	シバ [△] ツトガ	中	4,000 0.005	発生 初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

(3) 薬害

① 対象作物への薬害

表 2-1 から表 2-4 に示した薬効・薬害試験において、薬害は認められなかった。

アテクゾフロアブル（イソシクロセラム 18.1 %水和剤）を用いて実施した西洋芝（バーミューダグラス）の薬害試験結果概要を表 2-5 に示す。試験の結果、薬害は認められなかった。

以上から、申請作物に対する薬害について問題がないことを確認した。

表 2-5：アテクゾフロアブルの薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施 年度	試験条件				結果
		希釈倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理 時期	使用 方法	
西洋芝(バーミューダグラス)	大阪 R3	1,333	0.014	生育期	散布	薬害は認められなかった。
西洋芝(バーミューダグラス)	大阪 R3	2,667	0.007	生育期	散布	薬害は認められなかった。

② 対象作物以外の作物への薬害

本剤と同じ有効成分を含有するサイモディス DC（イソシクロセラム 9.3 %水和剤）を用いた薬効・薬害試験が提出されている（参照：表 1-1 から表 1-89）。試験の結果、9 科 28 作物について、薬害は認められなかった。

以上より、適用作物の周辺で栽培される作物への薬害について問題ないと判断した。